

講義コード	1677010000
講義名称	原価計算システム <春> ※遠隔授業（オンデマンド型）
科目英文名	Cost Management Systems
開講責任部署	経営学部 経営学科
代表ナンバリングコード	ACCT3410
単位数	2.0
時間割	春学期: 土曜日 3 時限
講義開講時期	春学期

## 担当教員

氏名
濱村 純平

授業形態	講義	アクティブラーニング
------	----	------------

アクティブラーニングの詳細	※受講人数により表記のとおり実施できない場合があります。 宿題(演習問題、e-learning等)
---------------	--

講義・演習概要	この講義では、主に製造業でもちいられる原価計算の仕組みについて解説する。とくに、実際に企業が財務報告に用いる原価計算について解説する。なお、講義内ではみなさんに計算問題を解いてもらって、前に出てもらって解答してもらおうと考えています。この講義では計算を重視するので、計算が直接成績に反映されると思ってください。
学習（到達）目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・実際に製造業で用いられている原価計算システムがどのように計算されているについて理解する。</li> <li>・各原価計算システムのメリットとデメリットについて知る</li> <li>・総合原価計算と個別原価ができるようにする。</li> </ul>

## 講義・演習計画

回	内容
第1回	ガイダンス及び原価計算の基礎・他の分野との関わり
第2回	原価計算の意義と原価の概念
第3回	原価の費目別計算 - ①材料費の計算
第4回	原価の費目別計算 - ②労務費と経費の計算
第5回	製造間接費
第6回	原価の部門別計算
第7回	これまでの復習
第8回	個別原価計算
第9回	単純総合原価計算
第10回	工程別総合原価計算
第11回	さまざまな総合原価計算
第12回	仕損と減損
第13回	標準原価計算
第14回	管理会計目的の原価計算
第15回	講義のまとめ

## 成績評価の方法（割合）

「成績評価の方法（コメント）」についても合わせてご確認ください。

試験	100%
----	------

レポート	
その他	

成績評価の方法（コメント）	<p>中間試験と期末試験で合わせて100点（50：50）です。講義中に前に出てきて解答してもらった場合もあります。この講義では私語は慎んでください。私語がひどい場合には減点します。もちろん、質問は歓迎します。また、必ず電卓を持ってきてください。レポートに剽窃がある場合は最終成績をD評価とします。加えて、レポートを遅れて提出する場合には採点したうえで最終成績から-40点として対応いたします。</p>
---------------	--

## テキスト

	著者	タイトル	教科書購入区分	ISBN	出版社	備考
1.	瀧村純平	レクチャー原価計算論	大学オンライン販売	978-4-502-55491-9	中央経済社	

参考文献	<p>タイトル：インサイト原価計算 著者：加登豊 出版社：中央経済社 I S B N : 978-4502286704</p>
事前および事後学習の指示	<p>必要に応じて適宜解説するので事前に財務会計について習得しておく必要はありませんが、学習しておくといいです。計算が中心になるのでテキストや参考文献の練習問題について、なぜそのような計算になるのかを考えながら実際に手を動かして復習してください。試験では実際に計算問題が出るので、これらを解けるようにする必要があります。</p>
学習時間	<p>事前学習時間：30時間 事後学習時間：30時間</p>
キーワード	<p>管理会計、原価計算、総合原価計算、個別原価計算</p>

講義コード	14D3510000
講義名称	財政学Ⅰ <春> ※遠隔授業（オンデマンド型）
科目英文名	Public Finance Ⅰ
開講責任部署	経済学部 経済学科
代表ナンバリングコード	FINC2400
単位数	2.0
時間割	春学期: 土曜日 3時限
講義開講時期	春学期

## 担当教員

氏名
木村 佳弘

授業形態	講義	アクティブラーニング	その他
			遠隔講義 PCスキル前提（google formへの入力）

アクティブラーニングの詳細	※受講人数により表記のとおり実施できない場合があります。
	小レポート/小テスト
	宿題(演習問題、e-learning等)

講義・演習概要	<p>いろいろなところで「財政」という言葉を聞いたことはある。ですが、『「財政」とは何か』を人にはっきりと説明できる自信がある人は、あまりいないでしょう。「政府は何をしてるんだろう」「税金なんてがどうしてあるのだろう」。三百年の歴史を持つ財政学の扉を開けば、その答えを見つける鍵を得ることができます。この講義は、財政学への招待状です。</p> <p>財政学Ⅰでは、財政の全体の流れを踏まえた上で、主に「税」について深く勉強します。</p>
学習（到達）目標	<p>(1) 現在の日本が置かれている財政状況に関する統計的な知識を身に付けられる</p> <p>(2) 租税論に関する基礎概念を正確に理解できる</p> <p>(3) (2)を前提として、課税形態の変化が実質税率にどのように影響するかを理解できる</p>

## 講義・演習計画

回	内容
第1回	財政学の基本的考え方（1） 財政学への旅立ち
第2回	財政学の基本的考え方（2） 「税金」とはなにか
第3回	財政学の基本的考え方（3） 政府はお金を何に使っているのか/国のかたちとは
第4回	財政学の基本的考え方（4） 政府はなぜ借金をするのか
第5回	「財政学の基本的考え方」小試験とまとめ
第6回	租税論（1） 租税原則
第7回	租税論（2） 租税の分類
第8回	租税論（3） 人税（1） 人税の歴史と現代日本の所得税
第9回	租税論（4） 人税（2） 課税単位、国際比較
第10回	租税論（5） 生産物市場税
第11回	租税論（6） 要素市場税
第12回	租税論（7） 地方税原則と地方税
第13回	租税論（8） 人的資産税
第14回	「租税論」小試験とまとめ
第15回	試験とまとめ

## 成績評価の方法（割合）

「成績評価の方法（コメント）」についても合わせてご確認ください。

試験	0%
レポート	
その他	100%

成績評価の方法（コメント）	「その他」内訳
	<p>講義時試験（30%） 講義内課題、講義内小試験（70%）</p> <p>講義時試験（30%） 学習目標の（1）（2）（3）を正確に理解できているかに関して講義時試験を実施します。試験は、（1）に関しては財政状況を正確に理解できているかを問い、（2）に関しては基礎的な概念を理解できているかを問う。（3）は制度の理解を正確にできているかについて問うものです。講義時試験内容は、（1）（2）に関しては正誤式、記述式（穴埋め問題）、論述式（論理構成が理解できているか、論理一貫性は確保されているか、日本語の妥当性等）を問い、（3）に関してはこれらに加えて計算問題を課します。</p> <p>講義内課題、講義内小試験（70%） 毎回の講義課題に沿って、学習目標（1）（2）（3）がそれぞれ理解できているかについて毎回の講義内に課題を課します。（講義資料をきちんと理解できていれば負担はそれほど大きくはありません。ただし、提出期間はかなり厳格に規定されていますので、毎回の講義毎に提出していかないと取り返しは効かなくなります。） 講義内小試験は、大きなテーマごとに実施されるものであり、テーマ内での（1）（2）（3）の理解度を問うものです。基本的な配点方針については第1回～第3回で受講者に開示致します。 なお、参加者全体に裨益する貢献である講義への積極的な参加、具体的には講義資料を踏まえた上での発展的質問については、加対象とすることがあります。詳細は第1回講義～第3回にて受講者に開示致します。</p>

## テキスト

	著者	タイトル	教科書購入区分	ISBN	出版社	備考
1.	神野直彦	財政学	大学オンライン販売	978-4-641-16581-6	有斐閣	

参考文献	<p>高端正幸・佐藤滋『財政学の扉をひらく』有斐閣、2020年 池上岳彦編『現代財政を学ぶ』有斐閣ブックス、2015年 持田信樹『財政学』東京大学出版会、2009年</p>
事前および事後学習の指示	<p>講義前の予習資料は原則として開示します。 講義後、テキストで復習した上で、提示された問題を必ず解いて下さい。</p> <p>なお、租税負担の算出においては、 （単純な四則演算の範囲ですが）計算式を解いて頂きます。 数字アレルギーがある方の受講はお勧めできません。</p> <p>この講義は遠隔講義（オンデマンド）であり、 PCスキル（google formへの入力、動画閲覧環境、teamsへの加入・閲覧）を前提とします。 PCが苦手な方、PC環境が整っていない方は他の講義の受講を御勧めします。</p>
学習時間	事前学習時間：30時間 事後学習時間：30時間

講義コード	1116120003
講義名称	社会学A 03<春> ※遠隔授業（オンデマンド型）
科目英文名	Sociology A
開講責任部署	共通教育機構
代表ナンバリングコード	0SOC1000
単位数	2.0
時間割	春学期: 土曜日4時限
講義開講時期	春学期

## 担当教員

氏名
濱田 武士

講義	アクティブラーニング	実務経験のある教員による授業①
授業形態		実務経験のある教員による授業① 政府・地方自治体、日本学術会議等の委員経験、データアーカイブの運営経験を持つ教員が政府および地方自治体での社会調査の実施・利用、政策について解説・講義する。

アクティブラーニングの詳細	※受講人数により表記のとおり実施できない場合があります。	小レポート/小テスト	宿題(演習問題、e-learning等)
---------------	------------------------------	------------	----------------------

講義・演習概要	<p>●社会学の成立とその展開</p> <p>「社会学」とはどのような課題に向き合い、なにを追究してきた学問なのだろうか。哲学、政治学、歴史学などに比べ社会学は比較的新しい学問といえるが、これらの学問領域とはいかなる点で異なるのだろうか？ 社会学の主要な概念や命題を学びながら、社会学の独自性を理解し、「社会的なものの方」を獲得することを旨とする。</p>
学習（到達）目標	<p>(1) 「社会学」とはなにを旨とする学問なのか？ を自分の言葉で説明できるようになること</p> <p>(2) 社会学の重要概念を学び、「ステレオタイプ（偏見）」を批判する視点を獲得すること</p> <p>(3) 自分の怒り、悩みなどの問題意識を社会的な「問い」に変換し、考察する力を身につけること</p> <p>以上を通じて社会に生きる「私（個人）」を位置づけ、そしてともに生きる「あなた（他者）」への想像力と感受性を育み、社会的な視点を身につける。</p>

## 講義・演習計画

回	内容
第1回	はじめに——社会学とは何か
第2回	社会学のアプローチと方法
第3回	近代社会の登場と社会学の誕生
第4回	自我の発達と他者
第5回	地位と役割
第6回	集団と組織
第7回	アメリカン・ドリームと移民
第8回	都市の発展と秩序
第9回	逸脱と社会統制
第10回	学歴主義と脱学校化
第11回	社会的格差と階級・階層
第12回	家族とライフコース
第13回	ジェンダーとセクシュアリティ
第14回	新しい貧困と社会的排除・包摂
第15回	まとめ——社会学の過去と現在

## 成績評価の方法（割合）

「成績評価の方法（コメント）」についても合わせてご確認ください。

試験	60%
レポート	0%
その他	40%

成績評価の方法（コメント）	「その他」は授業内容に関するミニテストです。出題のタイミングと回数については、初回のガイダンスで担当者から説明があります。回答期限は厳守してください。なお、感染症等で、授業形態が変更になる可能性があります。
---------------	---

参考文献	長谷川公一・浜日出夫・藤村正之・町村敬志『社会学（新版）』2019年、有斐閣、3,850円（ISBN 978-4-641-05389-2）近日中に改定予定。 間々田孝夫・藤岡真之・水原俊博・寺島拓幸『新・消費社会論』2021年、有斐閣、2,750円（ISBN 978-4-641-17461-0） 友枝敏雄・樋口耕一・平野孝典編『いまを生きるための社会学』2021年、丸善出版、3,800円（ISBN 978-4621305553） 中西啓喜・萩原久美子・村上あかね編、『大学生からみるライフコースの社会学』2024年、ミネルヴァ書房（ISBN 978-4623097807）
事前および事後学習の指示	授業の内容に関連する新聞やニュースを読んでおくこと。 授業時間外の質問はメールよりもM-PortのQ&Aが望ましい。平日に寄せられた質問は24時間以内に回答するが、土日祝日や長期休み中は返信が遅れる場合がある。
学習時間	事前学習時間：30時間 事後学習時間：30時間
キーワード	近代、秩序、自我、他者、地位、役割、集団、組織、移民、都市、逸脱、学歴、格差、階級・階層、家族、ライフコース、ジェンダー、セクシュアリティ、貧困、社会的排除・包摂

講義コード	1560820000
講義名称	国際政治事情研究A <春> ※遠隔授業（オンデマンド型）
科目英文名	International Affairs Analysis A
開講責任部署	法学部 法律学科
代表ナンバリングコード	POLS2440
単位数	2.0
時間割	春学期: 土曜日 4 時限
講義開講時期	春学期

## 担当教員

氏名
松村 昌廣

授業形態	講義
------	----

アクティブラーニングの詳細	<p>※受講人数により表記のとおり実施できない場合があります。</p> <p>その他</p> <p>なし</p>
---------------	--

講義・演習概要	ビデオ（全体の35%程度）その他資料を活用して、全体としては初級レベル、時として中級レベルの講義内容になるよう講義を進めます。もっとも、ここでいう「初級レベル」というのは簡単という意味ではありません。当然、高校レベルの知識、大学生としての社会科学の思考や基本的知識を習得していることを前提にしています。この講義により発展途上国を対象とする地域研究において政治、経済、社会の諸側面から、いかに総合的な分析に取り組むかを実例を示しながら学生の理解に繋げることを目標としています。
学習（到達）目標	政治学、社会学、経済学など社会科学の基礎をよく理解した学生を念頭に講義を行います。つまり、高校の世界史、日本史、地理、政治経済、現代社会などの関連科目をしっかりと学習してきたことを前提にしています。この講義では発展途上世界を比較分析に必要な基本的な発想、着眼点、分析手法を会得するためはじめに初歩的な理論的考察を行い、その後いくつかの重要なケーススタディーに取り組みます。ただし、広大な発展途上世界を全てカバーすることは不可能ですから、多様な理論の適用可能性、時事的重要性を考慮して、民族紛争、宗教紛争、国際テロを取り扱うこととします。

## 講義・演習計画

回	内容
第1回	国際関係論と地域研究
第2回	システム論的アプローチ
第3回	比較研究アプローチの危機・・・「理論の島々」
第4回	民族紛争（1）アイデンティティ、宗教、民族
第5回	民族紛争（2）ユーゴスラビア紛争
第6回	民族紛争（3）コンボ紛争
第7回	民族紛争（4）民族紛争（5）フランスにおける移民問題・・・アラブ系移民を中心に
第8回	民族紛争 まとめ
第9回	国際テロ・アフガン問題（1）国際政治と宗教（イスラム教）
第10回	国際テロ・アフガン問題（2）国際政治と宗教（ユダヤ教）・・・イスラエルを焦点に
第11回	国際テロ・アフガン問題（3）中東戦争
第12回	国際テロ・アフガン問題（4）アフガン反テロ作戦
第13回	国際テロ・アフガン問題（5）イラク戦争
第14回	国際テロ・アフガン問題 まとめ
第15回	全体のまとめ・試験

## 成績評価の方法（割合）

「成績評価の方法（コメント）」についても合わせてご確認ください。

試験	
レポート	100%
その他	

成績評価の方法（コメント）	講師が設定した問題と手順で、受講生に講義で扱った内容を基に論述式の持ち帰りのレポート試験（3000字～4000字）の作成・提出を求めます。十分な時間（恐らく週末を含め7～10日以上）を設定し、受講生が自分でとった講義ノートその他資料を見ながら、じっくり考えて作成できるようにします。
---------------	---

参考文献	松村昌廣『動揺する米国覇権』現代図書。 高木徹『ドキュメント 戦争広告代理店～情報操作とボスニア紛争』講談社文庫。 山本賢蔵『右傾化に魅せられた人々―自虐史観からの解放』河出書房新社。
事前および事後学習の指示	講義に合わせて、参考文献の該当部分を予習・復習で読解すること。
学習時間	事前学習時間：30時間 事後学習時間：30時間

講義コード	1121720000
講義名称	環境問題概論[2] <春> ※遠隔授業（オンデマンド型）
科目英文名	Introduction to Environmental Problems
開講責任部署	社会学部 社会学科
代表ナンバリングコード	OSOC1420
単位数	2.0
時間割	春学期: 土曜日 5 時限
講義開講時期	春学期

## 担当教員

氏名
巖 圭介

授業形態	講義	アクティブラーニング	実務経験のある教員による授業①
			農水省の研究所で勤務経験のある教員が、その経験を活かして、温暖化や化学物質、水資源と、食糧問題を含む社会の持続可能性について講義する。

アクティブラーニングの詳細	※受講人数により表記のとおり実施できない場合があります。		
	コメントシート	小レポート/小テスト	宿題(演習問題、e-learning等)

講義・演習概要	<p>気候変動、リサイクル、化学物質・・・、環境問題はすでに身近にあり、多くの人が漠然とした不安を持ちながら、しかし具体的に行動を起こすことなく毎日を送っている。私たちの生活の何がどのように問題なのか、多くの情報があふれかえる現在、信頼できる基礎知識を身につけ、それをもとに論理的に思考してこれからの自分の行動を決めていかねばならない。この講義では、世界の市民としてこれからの時代に責任をもって生きていくうえで必須と思われる、主要な環境問題に関する基礎知識を身につけてもらう。</p> <p>なお、この講義は完全オンデマンド形式で行うが、毎週公開される講義動画を視聴しながら資料の空欄を埋めていく必要があり、その都度出題される小テストや小課題等を期限までに回答し、また不定期に課される課題も期限内に提出することが求められる。課題はできるだけ自分の生活を振り返る内容を考えている。質問や感想、リクエスト等にはM-Port上で随時回答する他、授業動画内でも取り上げていくことでできるだけ双方向性を確保していきます。</p>
学習（到達）目標	<p>主要な環境問題（気候変動、エネルギー問題、大気汚染、ゴミ問題、人工化学物質汚染、食糧問題）について、起きている問題の内容とその原因を説明できるようになる。</p>

## 講義・演習計画

回	内容
第1回	イントロダクション：持続不可能な地球
第2回	気候変動1：現状と原因
第3回	気候変動2：国際取り組み
第4回	気候変動3：エネルギー問題
第5回	大気汚染と酸性雨
第6回	ゴミ問題1：基本の枠組みと現状
第7回	ゴミ問題2：産業廃棄物
第8回	ゴミ問題3：リサイクル
第9回	化学物質汚染1：負の遺産
第10回	化学物質汚染2：ダイオキシン
第11回	水質汚染
第12回	生態系の破壊
第13回	食糧問題
第14回	まとめ：地球の限界と持続可能性（最終確認テスト）

第15回	確認テストの解答解説、寄せられた質問・コメントへの回答
------	-----------------------------

## 成績評価の方法（割合）

「成績評価の方法（コメント）」についても合わせてご確認ください。

試験	100%
レポート	0%
その他	0%

成績評価の方法（コメント）	受講確認を兼ねた小テストや小課題を毎回WebClassの機能を使って課す（提出期限は基本的に翌週の授業前日まで）。さらに期末（第14回）には全範囲について理解度確認テストを行うので、毎回配布される資料の空欄をすべて埋めて整理しておくことを勧める。また気候変動とゴミ問題については別に簡単なまとめ課題を課す。 双方向性を確保するため、情報提供を歓迎する。内容によってボーナスポイントを付与する。
---------------	---

参考文献	環境省編『令和7年版 環境・循環型社会・生物多様性白書』（Web版）、東京商工会議所『ECO検定公式テキスト』日本能率協会マネジメントセンター 2025、遠山益『人間環境学』裳華房 2001、安井至『市民のための環境学入門』丸善ライブラリー 1998、安井至『地球の破綻: 21世紀版“成長の限界”』日本規格協会 2012、他、適宜紹介する。
事前および事後学習の指示	動画視聴の退屈を軽減するため穴埋め資料（Wordファイル）を用意するので、授業前にダウンロードしておき空欄を埋めながら視聴してもらい、随時疑問に思うことなどノートを取り、授業後に復習すること。期末のテストでは全範囲にわたる出題をするので、資料を完成させ整理しておくことが大切である。日常目にする環境関連のニュースなどをチェックし、常に情報をとりいれるとともに授業内容との関連などについて考え、必要に応じて質問や情報提供をしてほしい。
学習時間	事前学習時間：30時間 事後学習時間：30時間
キーワード	環境、持続可能性、SDGs、気候変動、ゴミ問題